

次の文を読んで以下の問いに答えなさい

己おのれが正しいと思ひ込めば、それに異よなを唱となえる人は万事正しくないことになる。己が正義で、相手は不正義なのである。いわば敵なのである。だから憎くなる。倒したくなる。絶滅したくなる。

人間の情として、これもまたやむを得ないかもしれないけれど、われわれは、わがさまたげとばかり思いこんでいるその相手からも、実はいろいろの益を得ているのである。

相手がこうするから自分はこうしよう、こうやってくるなら、こう対抗しようと、あれこれ知恵を絞って考える。そして次第に進歩する。自分が自分で考えているようだけれど、実は相手に教えられているのである。相手の刺激で、わが知恵を絞っているのである。敵に教えられるとでもいうのであろうか。

倒すだけが能ではない。敵がなければ教えもない。したがって進歩もない。だからむしろその対立は対立のままにみとめて、たがいに教え教えられつつ、進歩向上する道を求めたいのである。つまり対立しつつ調和する道を求めたいのである。

それが自然の理というものである。共存の理というものである。そしてそれが繁栄はんえいの理なのである。

(道をひらく 松下幸之助)

問一 この文の見出しをつけるとすれば、どんな見出しをつけるか、二十字以内で書きなさい。(なお、本をもっている人も、自分で考えて書いてください。)

見出し

問二 添付の解答例(「一本のわらが人生をかえる」)を参考のうえ、解答用紙に適する文章を書きなさい。